

平成27年度「幼児教育専攻」の取り組み ～子育て支援コース～

幼児教育専攻は、1回生の11月終わり頃に「コース選択説明会」に参加し、「遊び文化コース」「自然教育コース」「子育て支援コース」についての内容や学びについて、先生やそれぞれのコースの先輩から話を聞き、自分の学びたいコースを選択します。そして2回生の基礎ゼミⅡでは、各コース約40名で、それぞれのコースの基本となる学びに取り組んでいきます。今回の専攻報告では、そのコースの中から特に「子育て支援コース」の昨年度の取り組みについて報告したいと思います。

まず2回生の活動としては、主に夏休みを利用して、子育ての取り組みをしているNPO法人や地域の子育て施設やベビー用品等を扱っている企業等、学生が自らアポイントメントをとり日程調整をして訪問します。昨年度もゼミ単位にこだわらず、近隣同士のグループも含め8グループに分かれて、様々な施設に行きました。そして施設のスタッフや、そこに参加している母親にインタビューしたり、実際に子育て活動に参加したりして、現在の子育ての現状や課題、また子育ての悩みなど聞き取った内容をまとめコース内で11月に発表しました。発表の方法はパワーポイントや劇、紙芝居等それぞれのグループでの工夫がみられました。



コース内での発表の様子

- ・ 金銭面の余裕がなく、お金のかかる子育て支援サービスは受けられない
 - ・ でも、サービスを受けないと子育てができない、...
- そんなときは... やんちゃまファミリーへ!
- ・ 子育て支援サービスが無料で受けられる
 - ・ 病児保育も実施
 - ・ やんちゃまカフェでは、母親同士が話せる

全体発表でのパワーポイントの画面の一部

その後1月にカトレアホールで行われる2回生の3コース全体発表会に向けて、司会者を決め発表内容を相談しました。昨年度はそれぞれの訪問施設の特徴に視点を当てて、パワーポイントを使って「○○で悩んでいます・・・そんな時には○○へ」などをキャッチフレーズにし、母親役とスタッフ役の寸劇なども入れながら発表しました。

発表内容としては、報告だけにとどまらず、自分なりに感じた課題や課題解決に向けての対策なども考え、現在の子育ての状況を知ると共に、今後の子育て支援の在り方についても学ぶ

ことができたと思います。

3回生では、コースを外してゼミを選択するのですが、年間4回、ゼミナールⅠの時間にコース別で集まりました。子育て支援コースでは、昨年度前期は、富田林市内の子育て支援施設のボランティアに参加する訪問先を決め、9月頃迄に1人～2人で参加し、レポートを提出しました。後期は、ボランティアの報告会と4回生の「縁活」というイベントの手伝いをしました（今年度は市内のボランティア活動の他、ゲストティーチャーによる「絵本と子育てとのかかわり」をテーマにした授業も行いました）3回生には、2回生に訪問した施設で継続的にボランティア活動をしている学生もいて、2回生での経験が活かされていると感じました。また4回生のイベントの手伝いをしたことで、今年度の「保育実践演習C」というコースにかかわる授業の履修者が、昨年度に比べて大幅に増えました。

4回生は、昨年度より「保育実践演習C」という、子育て支援コースにかかわる授業が新たに設けられ、その授業を選択した学生を中心にコースの学びに取り組みました。

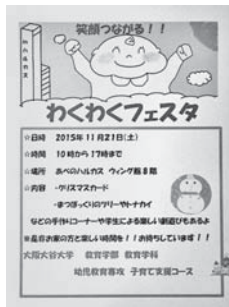
授業内容としては、子育て支援施設のスタッフの方の講話を聴いたり、保育園や幼稚園での保護者対応の事例によるロールプレイングをしたりなどの授業を受け、その後は、あべのハルカスでの「縁活」というイベントに向けての準備や当日の活動に取り組みました。

「縁活」とは【市民活動団体・地域の皆さん・ボランティアと百貨店が一緒に楽しく、地域をちょっとよくするためのプログラムを展開するプロジェクト】をコンセプトにした活動です。

その活動団体に大阪大谷大学もエントリーし、あべのハルカス百貨店内の「街ステーション」というスペースにおいて、地域の方（主に乳幼児と親）対象に、大学生が様々な親子のふれあい遊びやクリスマスグッズ作りなどを企画し、学生と親子とのかかわりを楽しみました。

テーマを「笑顔つながるわくわくフェスタ～お家の方と楽しい時間～」とし、次頁のようなポスターを作って、大学に掲示したり、大阪市内の幼稚園や知り合いに配付したりしました。

当日は200組近くの親子が来てくださり、様々なクリスマスの作品づくりやカプラ遊び、学生の劇鑑賞等を楽しんでくださいました。参加されたお母さんの中で、未熟児で出産をされた方がいて、「子育て支援コース」が大学にあることに、とても興味を持たれ「いろいろな子育て支援について学んだ学生の方が将来保育者になられたら、私のような子育てに不安を感じている母親にとっては、本当に心強いです」との声も頂きました。また「学生の方が本当に親切丁寧に教えてくださるので、子どもがとても喜んでいました。ありがとうございます」などの感謝の言葉も多く頂き、学生の何よりの励みとなりました。



縁活の全体の様子



クリスマスカードづくりの様子



カプラで遊んでいる様子



劇遊びの様子

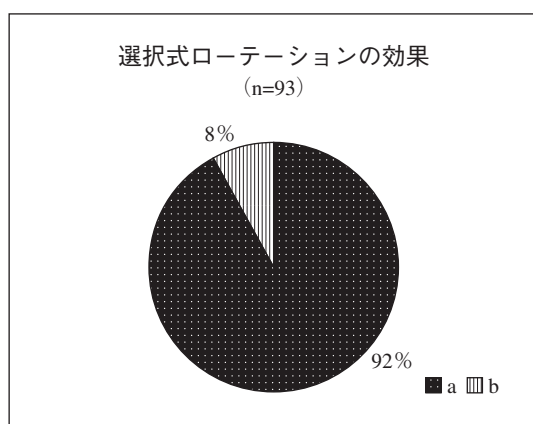
このコースでの学びに4年間取組んだ教育学部第一期生の学生が、昨年度卒業し、幼稚園や保育園の現場で現在働いています。卒業生達が、子どもだけでなく親の目線や気持ちを理解する必要性も感じながら保護者とかかわっていることを願うと共に、自分自身が母親や父親になった時にも、この4年間での学びを活かし、子育ての在り方について、自分なりに考え工夫するようになってもらえたらと思います。

(幼児教育専攻代表 子育て支援コース担当 墨村 充子)

平成 27 年度「学校教育専攻」の取り組み

〈基礎ゼミ〉

2012 年度から基礎ゼミ I において、専攻所属教員の専門分野やゼミの内容に触れ、教養を広げるとともに 3 回生以降のゼミ選択の参考となる試みとして「ローテーション方式」を導入してきた。2015 年度からは専門分野・領域ごとにグループを作って学生が選択する「希望選択方式」を採用しており、回によって受講者数に一時的な偏りは見られるものの、自ら希望して受講している分だけ熱心に取り組んでいる状況がうかがえる。



年度末に実施した意識調査の結果が左図の通りである。

- a きっかけとして意味がある
- b あまり意味がない

左図のように、現行方式に対する支持は非常に高く、来年度も原則として同様の形式で基礎ゼミ I の運営を進める予定である。

また、5 月 20 日・7 月 1 日の両日、富田林市立錦郡小学校の協力を得て、「学校観察実習」を実施した。2015 年度より新規に設定した取り組みであり、専攻所属の 1 回生全員を 2 つのグループに分け、ゼミ担当教員の引率の下、各日 40～50 名程度の参加人数で訪問を行った。昨年度の「学校ボランティア」での反省点を踏まえ、学校側との意思疎通、学生への事前事後の指導などで改善が図られ、現場の反応も肯定的なものであり、一定の成果を得ることができた。この実習を契機に、「お仕事入門」として教職教育センターが実施している現場体験実習への接続を促し、以降のボランティア・インターンシップへと発展させていく予定である。2 回生は「インターンシップ I」という形で、2015 年度後期に別途全員に現場体験の機会を設けた。

さらに基礎ゼミ II では、3 回生以降の自らの学修に必要な施設機関の利用促進を目的として、6 月に「就職課・図書館・教職教育センター訪問ツアー」を実施した。各部署に対する理解は深まったものと解されるが、成果は今後の利用状況に左右されるものでもあるため、引き

続き内容を精査した上で、次年度以降は1回生から一部施設のツアーを先行実施する予定である。

〈学習課題〉

2012年度より、専攻の目標でもある教員採用試験合格に向けて基礎的・基本的な学力を身に付けることを目的として、1年間「学習課題」を設定し、基礎ゼミの時間にゼミ担当教員がノートを回収し、確認と指導を行っている。2週間に1度の確認や指導では継続性に難のある学生も少なからず見られ、よりきめ細かで手厚い指導や支援が必要との意見を受け、平成27年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト「手書きノートの電子ポートフォリオ化を通じた協調学習・評価システム」に基づき、学習支援システムである moodle を活用し、ゼミの時間帯にとらわれず毎週定期的・継続的に課題を確認し指導できる仕組みを導入した。2015年度後期は、基礎ゼミの日に提示された2週分の課題をゼミ生全員で分担し、火・水・金に4回生の学習指導員（TM：ティーチング・マスター）を配置して毎週課題のチェックや指導・提出を行う形をとった。さらに、分担して取り組んだ課題を全員の成果として Web 上で共有する「あわせるノート」を作成し、練習問題を解く際の資料として活用した。提出状況を見ると、1回生はほぼ全員が提出できており高い参加・継続状況が見られる一方で、2回生は徐々に提出率が低下しており、改善が必要である。提出状況は下記のとおり。

| | | | | | | | |
|------------|------|---|--------|-----------|---|-----|-------|
| 全対象学生 | 192名 | → | 平均提出回数 | 15.0回/22回 | … | 提出率 | 68.0% |
| 基礎ゼミⅠ（1回生） | 96名 | → | 平均提出回数 | 19.3回/22回 | … | 提出率 | 87.7% |
| 基礎ゼミⅡ（2回生） | 96名 | → | 平均提出回数 | 10.6回/22回 | … | 提出率 | 48.1% |

また、1回生の基礎ゼミⅠにおいて学習課題を範囲としたテストをゼミ対抗戦と兼ねる形で、12月16日（水）に「ゼミバーシアード」を実施した。



ゼミバーシアードで、景品と優勝メダルに喜ぶ学生たち

〈全体会〉

2014年度より、基礎ゼミの中で年間数回、専攻所属学生全体を集めて指導を行う「全体会」を実施している。「教師塾」や「大阪府教員チャレンジテスト」など、節目の機会に情報提供や対策の場を設定することで、受験者数の増加をはかっている。2015年度は、基礎ゼミⅠにおいては各回の冒頭の30分の「朝礼」実施時に専攻学生全員が一斉に揃う機会を利用して、情報提供や指導などを行った。基礎ゼミⅡにおいては、11月11日（水）にチャレンジテスト対策、1月20日（水）に教師塾対策の全体会を実施した。

〈教員採用試験対策〉

ゼミ教員による個別指導に加え、教職教育センターの取り組みに協力する形で、受験者情報の提供や面接指導などの対策を行った。特に複数自治体の併願受験者の増加など、一定の成果が見られた。

（学校教育専攻代表 開沼 太郎）

平成 27 年度「特別支援教育専攻」の取り組み

(1) 系統的な実習とアクティブラーニング形式授業による知識と経験の相互補完的な学びの推進

各学年で学校現場等での実践的な学びを設定し、教職へのイメージ推進を図った。

- ① 1 回生：「特別支援教育観察演習」で支援学校を訪問し、授業参観や施設・設備などの見学を行った。また、授業補助や学校行事、放課後学習支援等のボランティアを案内・奨励した。特別支援教育の専門スキルに興味・関心が持てるように専攻設定科目として、「点字と手話」の授業（集中講義）を計画した。
- ② 2 回生：「特別支援教育実践指導演習Ⅰ」で小学校のインターンシップ実習（1 週間）を行い、通常の学級及び特別支援学級での実地体験を行った。また、小学校、特別支援学校等への学生支援ボランティアを案内・奨励した。教員採用試験対策の導入として、後期 9 月に 2 回生全員が統一した教職教養の教員採用試験対策問題集を購入し、ゼミ担当教員のチェックのもと、12 月までに計画的に教職教養の基礎知識を学ぶ期間を設定した。
- ③ 3 回生：小学校、中学校等の教育実習が行われた。「特別支援教育実践指導演習Ⅱ」の集中講義で特別支援学校・特別支援学級の両方の授業補助による実地体験を行った。また、学校現場での実践を想定した「特別支援教育指導法演習Ⅰ（きらり教室）」において、障がいのある子どもを実際に担当し、チームで実態把握、個別の支援計画の作成、実践、報告、保護者相談に取り組むアクティブラーニング形式の本格的な実践授業（前期・後期開講）を実施した。
- ④ 4 回生：特別支援学校への教育実習が行われた。学校支援ボランティアとして、知的障がい及び肢体不自由の特別支援学校の両方を体験することを奨励し、多くの学生が障害種別の学校で実践を積むことができた。また、「特別支援教育指導法演習Ⅱ（きらり教室）」において、継続的に障がいのある子どもを担当し、チームで計画・実践・評価・改善のプロセスに取り組んでいる。教職実践演習において、聴覚障がいの特別支援学校への見学実習や、知的障がい、肢体不自由の子どもの運動会・学習発表の見学を必須として実施した。

(2) 教員採用試験対策

1、2 回生は、4 回生による模擬授業及び面接練習場面のビデオを視聴し、到達目標のイメージ化を図った。基礎ゼミⅡでは、専攻全員で同一の教職教養問題集を購入し、ノートに要約して定期的にゼミ担当に提出する取組を始めた。3、4 回生では、小学校全科を重点とした筆記

対策と、面接対策の自己アピール作成演習、支援学校の模擬授業を重点に対策を行った。平成27年度実施の教員採用試験の結果は、特別支援学校教員採用試験合格者は28名で、特別支援教育専攻における教員採用試験受験者の合格率は約80%であった。

(3) 社会連携・地域貢献（2015.5～2016.2 計18回実施）

教育学部と大阪府教育委員会と連携して、現職教員を対象とした「小中学校、高等学校、支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修」を平成19年度から継続して実施している。学生も研修会のサポート役兼受講者として参加し、大阪府の特別支援教育をリードしている現職教員とともに学び、貴重な学びと刺激を受ける機会となっている。本年度は、独立行政法人教員研修センターが公募した「平成27年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」に申請し、採択されたことから、現代的なニーズに応える研修カリキュラムの開発・実施・検証に取り組み、研究成果報告書を作成した。来年度も同様の公募に申請手続きを進めている。

(4) 免許更新講習「特別支援教育講座」の実施（7月31日、8月1日、2日の計3日間）

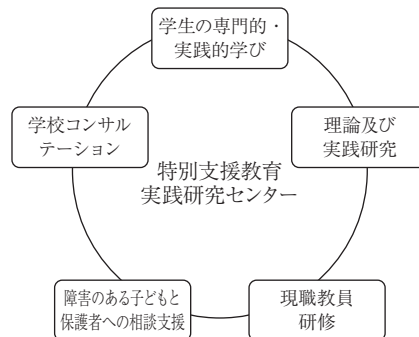
選択領域「教科指導・生徒指導その他教育の充実に係る事項」における18時間を実施した。定員50名を超える受講者であった。

(5) 平成27年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト研究計画の採択・実施

平成26年度に引き続き、「特別支援教育におけるICT活用に関する研究Ⅱ～ICT活用に対する積極性向上をめざした取り組み～」のテーマで、タブレット端末とwivia3を組み合わせて活用し、講義・演習・ミーティング等での双方向的な情報交換の促進研究を行った。

(6) 文部科学省「特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業（認定講習）」の実施

大阪府の喫緊の課題である支援学校教員の免許保有率を高める施策として、大阪府教育庁と連携し、文部科学省「特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業」として、平成27年度認定講習「特別支援学校教諭免許取得講座」を企画・実施した。大阪府立支援学校教員の259名が受講し、全員に単位取得証明書を発行した。平成28年度は、大阪府教育庁が実施主体（申請・実施等）となり、継続して実施していく。



(7) 特別支援教育実践研究センターの設置・取組

平成27年4月1日より、障がいのある子どもとそ

の保護者への相談支援機能、教員をめざす学生と現職教員への教育・研修機能、特別支援教育に関する理論及び実践研究機能をもった特別支援教育実践研究センターを設置した。特別支援教育に特化したセンターは大阪府内唯一であり、特別支援教育に係る多様なニーズに応えられるセンターとして社会に位置付けられるよう実践を進めていきたい。

①特別支援教育実践研究センター・第1回セミナーの開催

第1回セミナーを下記の通り実施した。

〈日時〉：平成27年9月25日（金）18時30分～20時30分

〈場所〉：大阪大谷大学ハルカスキャンパス

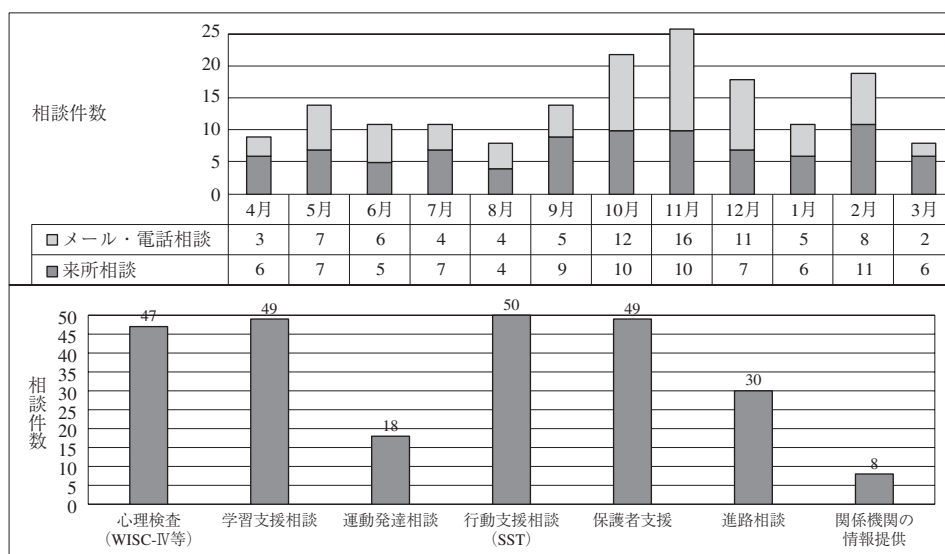
〈講師〉 ウィリアム・ヒューワード先生（元国際行動分析学会会長：オハイオ州立大学終身教授）

〈通訳〉：中野良顕先生（元日本行動分析学会会長。日本臨床教育学研究機構理事）

〈参加者〉：約120名の参加（卒業生・学生・教育委員会・教職員等）

②発達相談の概要

平成27年度の発達相談は、来所相談88件、メール・電話相談103件の計191件の相談があり、概要は次の図（相談件数・相談内容）の通りであった。



平成27年度の発達相談の概要

（特別支援教育専攻代表 小田 浩伸）